

磁器キよまんば!!

発行部数411部

第3号

2013年
10月

8月は1組、9月は3組の方たちが工場見学にお見えになりました。見学依頼の方、来社の話の流れで見ていただく方などさまざまですが、ありがたいことに取引の有無に関係なく



↑機械の説明もしています

いろいろな方にお越しいただきます。

地元の陶土工場の中では一番広いかもしれない敷地



↑キネとウスに興味津々!!

昔ながらの伝統的な粘土の作り方や機械化された設備など、そのときのお時間に合わせて興味深く見ていただけるようご説明しております。

天草陶石の種類、キネとウスで石を砕いているところ、水の中で粗い粒と細かい粒を分けていく水簸の原理、日本中・世界中のさまざまな原料を入れてすりつぶすボールミル、液体状態の粘土に圧力をかけて水を抜くフィルタープレス、出来た板状の粘土を自動で取り出す機械、真空土練機で練り上げられていろんなサイズの円柱形の

6000m²に建つ建物内を、製品が出来ていく流れにほぼ沿ってご案内させていただいています。

120年以上この地で操業している歴史的・地理的成り立ちなどをお話ししながら、



←水簸すいひの説明

粘土が変わるところなど、手間ひま掛けて粘土を作る様子を通して、ものづくりの大変さ・楽しさが伝われば嬉しいかぎりです。

大勢のお客さまの場合や子どもたちが来るときなどは、社員さんたちの協力のもと、その日の生産がなくても

機械を動かしたり、予定を変更して見学時間に合わせて稼働させたりします。ご希望であれば作業の体験もさせていただいて、有意義な時間になるよう努めています。

設備面での秘密はありません。写真撮影も大丈夫です。大事なノウハウについては触れないところもありますが、面白いとか、なるほどと感心していただけるのを目指していますので、質問は大歓迎です。

同業他社さんの中には見学をお断りされるところもあるそうですが、わが社はどなたでもウェルカムです！お近くにお越しの際は是非お声かけください。

淵野直幸



陶土屋さん 5代目社長のブログ

<http://blog.livedoor.jp/fuchinonaoyuki/>

↑見学した方々からの質問タイム!!



日本人が本来持っているはずの他者へのところ遣い思い出し、実践すべきではないでしょうか、と始まります。小笠原流法は室町時代の武家社会において確立されるそうです。そこに伝わる古文書から、現代に生きる我々にとっても大切なことを上げてあります。

姿勢、お辞儀の仕方、敬語の使い方や片手で物を渡さないなどのふるまいから、「こ佐賀の「葉隠」を取り上げるなど、こころや気持ちの持ち方についてまで示してあるのだから、いやいや私はまったくいいえ、いいえと出て来ない。なんとも情けない。



淵野直幸

日本人なら知っておきたい美しい10の作法

小笠原敬承斎(著)

オススメの1冊

vol.3



似ている言葉編

佐賀弁講座

Vol.2

私たちが普段使っている方言を伝授します!!
これであなたも佐賀もん!!

●きゅー (kyu-) 意味: 今日

これは響きで聞き取れる!! ...かも。

例: きゅーはよか天気ね!!
(今日はいい天気だね!!)

●きゃー (kya-) 意味: 貝

ちなみに牡蠣は【せっか】と言います。

例: きゃーの中ではせっかが1番好いと!!
(貝の中では牡蠣が1番好きだ!!)

●しゃー (sya-) 意味: おかず

さすがにこれはあまり使いませんが

じいちゃん、ばあちゃんはよく使ってます。

例: きゅーのしゃーはきゃーのしゅっ
(今日のおかずは貝の汁物)

佐賀弁の言葉遊びみたいなものの代表です。
こういう使い方はほとんどしません(笑)

会長さんの昔話

第3話

ここ塩田は、江戸時代は長崎街道の宿場町として、明治・大正時代は佐賀県南西部の海運の中心地として栄えていたようです。塩田港は塩田川の河口からおよそ6km内陸へ遡ったところにある港ですが、有明海の干満の差を利用して船が行き来していました。

昭和9年、となりの鹿島市を通る国鉄長崎本線が開通したことにより海運は廃れていきますが、一般物流がなくなった後も天草陶石の運搬はこの港を利用していました。50～70トンの石を積んだ船が入港できるのは大潮の満潮時。1kmほど下流の牛間田港は中潮までの満潮であれば上がってくることができました。小潮のときはのぼって来ませんが、それ以外は毎日数隻の船が入ってきていたのです。



↑昭和40年ごろの塩田港



↑現在の塩田港跡

塩田港は昭和40年代終わりごろまで、牛間田港へは昭和50年代はじめまで使われていました。現在、牛間田港は跡形もありませんが、塩田の港は当時使われていたクレーンの橋脚を残し公園として整備されています。そこから出たすぐの通り、旧長崎街道沿いの街並みは重要伝統的建造物群保存地区として国から選定されています。

「60トンデタウ」このような電報で天草出港の連絡が来ていました。船が入るときには必ず父は港へ出かけて行き、港の前のひろせ屋で船長さんと食事をし、そこで船運賃の支払いも済ませていました。当時日本一高いと言われていた運賃ですがもちろん現金支払い。食事代もこちら持ち。今では考えられないようなことが日常でした。

昔のことです。陶石の陸揚げには人手が要りました。入港時には、仲仕さんと呼ばれる荷降ろしをする人夫さんに大勢来てもらっていました。その多くが女性でした。

後になって仲仕さんだった方から聞いた話です。「多八さん（父です）はいろいろと差し入れをしてくれてたよ。それに比べ、ケチな人は全然持ってきてくれんやっただけね…」

父は働いてくれている人たちにいろいろと気を遣っていたようです。

編集後記

全3回の社員さん紹介。実は社長からいつもオチや面白さを求められていました(笑)
次回は、なんのコーナーにしようかな～。

じゃりんこミホのしている風景

ちょっと大きくなった?!
その3

会長さん
スイマセン!

私の母校、有田工業高校が初の甲子園出場を決めました!! ということでした!! 8月8日木曜日。応援グッズを身にまとい、高校の同級生たちと甲子園球場へ行ってきました。

開会式を見た後、開幕試合で始まった1回戦の相手は岐阜県の大垣日大高校でした。試合が始まり、有田は無得点が続き0-3。とうとう7回に入り、もうダメかと諦めかけていたとき、ようやく2点を入れ、点を縮めました!!

そして8回表。2アウトからの2者連続ヒットで5-3の大逆転!! でも、その後1点を返され、9回表では得点なし…。

1点差で迎えた最後の守備。2アウト2ストライクまで追い詰め、勝敗を左右する次の1球に息を呑みました。

速いはずの球はスローモーションに見え、審判の腕は一瞬だけ間をおいて上がりました。判定はストライク。5-4、試合終了。

「え…勝ったとよね…」最初に飛び出た言葉はこれでした。状況を把握してからは、周りと一緒に手を上げて飛び跳ねて、一緒に来てた友達、知らないおじさんとまでもハイタッチして喜びました。甲子園で母校の校歌が流れたときは夢のようでした。

2回戦は、残念ながら負けてしまいましたが、10代最後の夏は、一生もののアツイ思い出に大満足です!!

↑歓喜に沸いたアルフススタンド!!

吉村 美穂

↑ブログも Check!! ↑
じゃりんこミホのしている風景
<http://ameblo.jp/toudoyasan-jarinko/>



じゃりんこミホの社員さん紹介

なんと…最終回

野田さん



普段から自分で散髪しているそうです。使用する道具は、掃除機とバリカンが一体になったハイテク機器!!??

さらに、奥さんと大学生の娘さんが松潤の大ファンだそうで、その影響からかジャニーズにすごく詳しい!! 嵐トークはいつも45歳の野田さんにしています(笑)

北川さん



普段から facebook や LINE でやり取りしています(〇) 社内では知ることがない一面をたくさん知れて、ちょっと嬉しいのはここだけの話(笑)

他の社員さんたちのプライベートはあまり知りませんが、北川さんの日常は筒抜けです!! (-v-) 二割

中尾さん



ベビーフェイスな中尾さん。5歳も年上だったとは…。(すいません!!!)

同じ高校の先輩です。なんと担任の先生と一緒にでした!!

そして、「休みの日は何をしましたか??」と質問すると、100%の確率で「ゲーム」と答えるゲーマーです!!

有限会社 洲野陶磁器原料

〒 849-1426

佐賀県嬉野市塩田町大字五町田乙 287-1

TEL 0954-66-4207

FAX 0954-66-3747

E-mail info@fromform.jp

HP <http://www.fromform.jp>

